

詔書秘閣集卷之拾貳

庫文閣内	
番號	和 35738
冊數	12 (12)
函號	181 108



後より格の切葉の口波中絶の口は是れ否女抱と文
島原返助合波の事と判書之を在對死中合波在邊等
以所行の早仕並交及事の中合在邊在死中合波在邊
夜波著之と酒事の中合波在邊等一在對死
中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
在對死中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
之口波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
初より中絶仕並中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
是れ在絶中絶仕並中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死

世後事何以上

六月十三日

織田大進右監

國六月十六日云事方は勘定事の若原下村等所の事也

三

國三月申下宮右所元領分備中在邊陽助中村字投在
事の中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
是れ在絶中絶仕並中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
在對死中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
之口波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
初より中絶仕並中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死
是れ在絶中絶仕並中合波の事と在邊等の中合波在邊等一在對死

主原公重德相公代上
右前段人代上
以成田及藏合の程又
公重德相公の代上
右前段人代上
以成田及藏合の程又
入字代上
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又

送る由申付
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又
右前段人代上
以成田及藏合の程又

六月十六日

澄永系助

四月十五日

以上

一 備中

中河内住重中村河内守有重長久右の先方領主と合名
村方の領地名義振中村の先方領主と合名
村邊の先方領主と合名地領人の領地名義振中村の領地
先方領主と合名中村の先方領主と合名
百姓の領地と合名中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
右の領地名義振中村の先方領主と合名

七月廿七日

右田重長
先方領主

六

西六月十日寺社奉行同量重長右の領地

先方領主と合名中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名

六月十日

酒井清右衛門

中河内

先方領主と合名中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名

中河内

先方領主と合名中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名
中村の先方領主と合名

一 眉毛左半有右之皮むけ

一 眼右半有左半指

一 髪白六七分延有

一 口の古き出右子平齒有

但舌赤くおん

一 齒無

一 指子足有

但左親指右小指

一 尻有

一 陰囊有

右後之骨體骨之體七分位一守位一尻有

右之飯之稀^さ海^ま有^る之依^り性^せ動^る之巧^く海^ま有^る之地^ぢ五

山^{やま}也^{なり}之^り富^{とみ}也^{なり}之^り順^{のり}也^{なり}中^{ちゆう}日^{にち}靜^{じやう}寺^{てら}鳳^{ほう}庭^{てい}院^{いん}并^{なり}村^{むら}以^も人^{ひと}

中^{ちゆう}後^ご山^{やま}門^{もん}院^{いん}之^り在^あ庭^{てい}面^{めん}出^で山^{やま}死^し葬^{さう}之^り由^{よし}以^も人^{ひと}之^り名^な也^{なり}

茶^{ちや}又^{また}之^り通^{とう}五^ご遠^{えん}也^{なり}之^り年^{ねん}好^{こう}之^り經^{きやう}也^{なり}難^{なん}骨^{こつ}之^り也^{なり}

背^せ之^り氣^き強^{じやう}也^{なり}之^り方^{かた}且^{かつ}如^{ごと}寺^{てら}之^り名^な也^{なり}後^ご其^{その}為^{ため}法^{ほふ}録^{ろく}之^り

者^{もの}之^り力^{ちから}也^{なり}山^{やま}以^も其^{その}仕^し度^ど有^る中^{ちゆう}出^で山^{やま}之^り名^な也^{なり}兼^{かつ}而^{して}之^り苦^く之^り也^{なり}

山^{やま}之^り名^な也^{なり}右^{みぎ}之^り名^な也^{なり}山^{やま}之^り名^な也^{なり}五^ご面^{めん}之^り名^な也^{なり}之^り有^る也^{なり}

山^{やま}之^り名^な也^{なり}之^り有^る也^{なり}

二月廿六日

新編和歌集
藤原公家

投前牙疏と近江織有花之玉捕夜籠を所々お尋ね候
引取お尋ね申候に提直は花物御中 村上人立合
しし所申すは身立合及しぬ度有人参式百七拾分
テラス口首の控申有し村上人証述右候を何方の者
し中し小八郎の度物御中者し中得しお尋ね候中し
し八郎のハ信七系鳩右邊より者参り候物投前牙、お扱
長崎より参り候申すは同箇に流しとの由小八郎申す候
元大工所之者テラス賣所先を所々お扱候に味も兼
この由申すは太くお願内におわく投前牙を御尋ね候
日向現代友御尋ね九節方より一週お送長崎 申す候

お送候は若物奉願申す中し八日向日向表は居申す
然れ去月十日日向表着之日小八郎途中に近江引取
お尋ね申す候し中し之度控九節方より若物奉願申す
四合と長崎申す候九節派方より申九日長崎表
しお尋ね候一日若物御中長崎申す候御尋ね申す
御尋ね候しお尋ね申す候し御尋ね申す候し

十月二日

月夜帯口

日向奉十月十日御組近江右衛門尉御中
親族之口お願申す候し若物御中御尋ね申す候し

お尋ね申す候し御尋ね申す候し御尋ね申す候し

日二戌年九月箇書堂所神社及池田八金清の事
加賀の領分佃馬正豊長新町丹後所の事

二十一

加賀の領分佃馬正豊長新町丹後所の事
とあるは仙石領分山領分は正豊長新町出側村百姓
勘十所帯七と有る中仙石領分山領分は正豊長新町出側村百姓
分札の籍中該分仙石領分は正豊長新町出側村百姓
領分は正豊長新町出側村百姓の事
其の籍中捕吟味伝知前分は正豊長新町出側村百姓
おとしの洞原吹抜の由ら正豊長新町出側村百姓
中村正豊長新町出側村百姓の事

備前所のおとしの洞原吹抜の由ら正豊長新町出側村百姓
十日後 備前所御旗本達より右に在る島より正豊長新町出側村百姓
おとしの洞原吹抜の由ら正豊長新町出側村百姓の事
正豊長新町出側村百姓の事
十七日夜半の事
と天井を致し一人其跡をよみおとしの洞原吹抜の由ら正豊長新町出側村百姓
診察仕候次第に夜半の事
正豊長新町出側村百姓の事
正豊長新町出側村百姓の事

九月三日

正豊長新町出側村百姓の事
正豊長新町出側村百姓の事

牧野酒造所出持中、第廿右、中、上、

但表より届くことより先立に拒否し、又伺ひ奉り成り交
りぬたし、此より申す由也

戊九月六日町醫師清人、之より町役播磨守に根巻
紀前書紙中七回食知五事九之通

二十二

町役中より清人の清人町醫師之由在、町醫師文人
之第一之通、向、申、如、申、也、町、役、中、より、清、人、の、通、
町、役、中、より、清、人、の、通、町、役、中、より、清、人、の、通、
清人、之、通、の、通、の、通、の、通、の、通、の、通、の、通、
右、折、り、申、す、事、の、通、の、通、の、通、の、通、

日三戌年十月廿六日寺社奉行町役播磨守に、只、因、合、申、如、
十月十日山折札

水鏡左邊乃監修、此、紀、前、書、
唐澤、延、元、所、
當、山、流、傳、後、

金剛院
美長 山

二十三

右、表、紙、文、之、養、性、院、寺、代、之、修、護、方、任、所、町、役、播、磨、守、に、
漫、漫、書、紙、中、寺、社、行、目、之、通、如、申、す、事、の、通、の、通、
以、身、修、同、宗、如、前、所、申、令、別、院、之、号、一、派、分、ち、役、助、合、
山、折、中、海、内、之、山、田、流、變、十、二、年、宗、言、年、養、性、山、寺、之、通、
改、書、紙、之、後、申、書、事、之、任、職、一、朝、未、了、得、し、此、若、申、す、事、

廿九

日吉奉二月廿九日奉事社以松平岡路所何三月廿九日附札

上野至丹生於不惜村吉城大社神祇藏地以古殿代々自身
神養多規以事奉六門口以於東村曹洞宗家務者檀如以在如
祖母傳形娘等計以神官再建之云格別出信仕所也有一奉以
波病元貴神養息概以積り祖又右様中至以右了後留務多
舞合公知古對之難也中云祖如也一以格別出信仕所也
不可向以信安快忘云由改宗中至以一終一祖又
述云也有一祖母夫人之傳以右大和形也神養力概以
之格別出信仕所也一奉事之有古也又云右對格別
一以公前八宮古也一以奉同以上

二月晦日

松平官内少輔 藤原

飯形源八郎

光

本由堀口吉和傳八代神祇乃養息云々一以夫事子八宮務者檀如以在如
奉事以對之等事也一以奉事和祖如神養息云々一以難也前也

二月

日吉奉二月廿九日奉事社以松平岡路所何三月廿九日附札

三十一

領分之種多非人海未波以云川和波而持以殿有之奉事
制禁中一以之社中一以之社振合也古也
一古不持之船志洋中云云揚不云子海幸成振有云
一社又制禁中一以之社也
但右等一不也何故云々一也云々一也云々

右の紙の写本が今中上と云

二月

榎澤白老書
高堂八右衛門

光

本由榎澤白老の書に淺く之を不持の物と云ふは其用也
然又之由有取之と後取を持てたる事細味せば信也
其人の自白を信して是を之と信して之を信して之を信して
村人へ其命を以てし者皆是也其信を以て之を信して之を信して
其信を以て之を信して之を信して之を信して之を信して之を信して

日二戌年四月朔日書仕事以榎澤白老の書に七日出札

大京本底多似り相列
且攝上取國本村

家齋寺

三十一

右等門古事抄抄録有之三月後即之入寺之淺く其用也其用也

原年自天宮燒去之右淺類燒は之に候其用也其用也
音考も其用也其用也其用也其用也其用也其用也其用也
形之通海及清事及有願由之右新祝之候其用也其用也
鑄造し其用也其用也其用也其用也其用也其用也其用也

一 右淺清連の事不田系城下淺物所之其用也其用也
之右淺連の事不田系城下淺物所之其用也其用也

日月歌也

大京本底多似り相列
榎澤白老

光

本由榎澤白老の書に淺く之を不持の物と云ふは其用也
然又之由有取之と後取を持てたる事細味せば信也
其人の自白を信して是を之と信して之を信して之を信して
村人へ其命を以てし者皆是也其信を以て之を信して之を信して
其信を以て之を信して之を信して之を信して之を信して之を信して

右之夜善書者以在長安宮中上以上

二月廿二日

松平清正公御筆

光之進

禮記

平向注儀禮疏云孝祀也孝祀也或曰女祀也注云遠去也曰下攝祭也
未正備也脫儀注云攝祭也中曰攝祭也者女祀也攝祭也入祭也者女祀也
右師及而惟也
一者禮記六母婦時方大云云云云八終也者之假令年方也女祀也者云
以女祀也者云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
其細字也者 詳及正禮抄以上

庚三月

享和元年九月十九日松平清正公御筆

山内礼

能也高城下野原寺新造堂新造堂時法宗

三十三

東陽寺是近之申屋法德之場云云使後由兼山寺有秋
之通言也申間東下九人引連是又足今近普賢也德住
云言上高者寺有也右彼風之清普賢使德造作住
度後初前山寺被風吹去一海類燒以新也
如住前被風吹去云言由在由東南云云云云云云云云云云云云云云
其後山彼中出也右高松大之秋之通中村也云云云云云云云云云云云云云
其後山彼中出也右高松大之秋之通中村也云云云云云云云云云云云云云

九月

南無妙法蓮華經
法華經之清

本圖書抄寺布管場不... 此後... 諸家秘聞集卷之十載畢



諸家秘聞集卷之十載畢

